

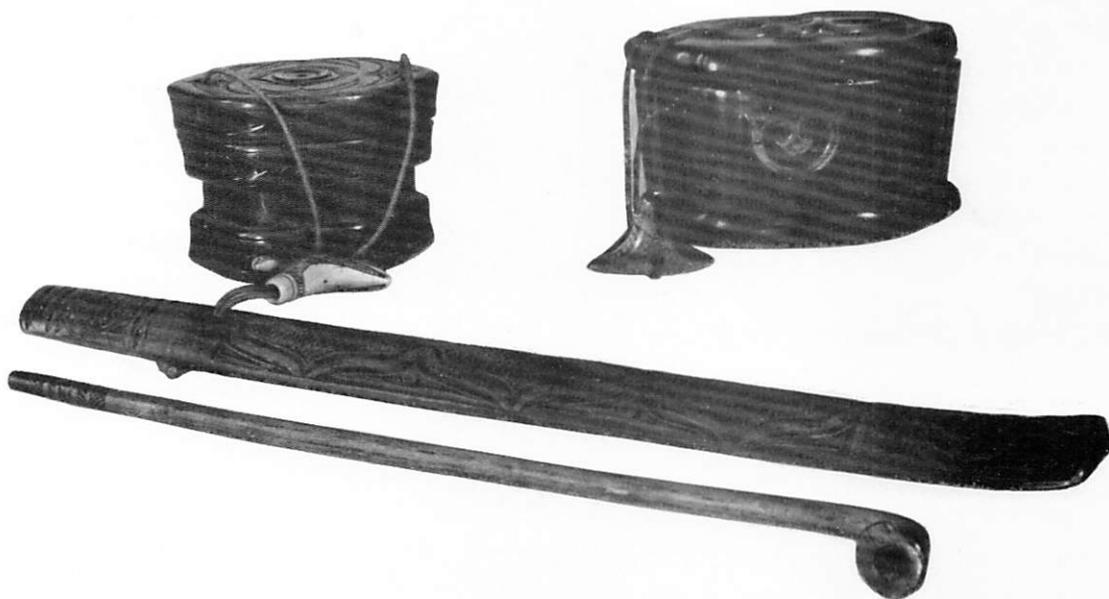
アイヌの喫煙用具 (その1)

アイヌ民族に喫煙の風習が、何処から何時伝わったか正確な記録はない。しかし17世紀の中頃には十勝・厚岸・国後・樺太等のアイヌに喫煙の風習があった事を、1643年同地方を航海したオランダ人のマールテン・G・フリース〔Vries〕が記録している。それによれば嗜好品としてタバコと酒に対する欲求はつよく、初めて会った外国人にタバコを要求したといわれる。

通常アイヌ民族は地域的に北海道アイヌ・樺太アイヌ・

千島アイヌの三種類に分けられるが、喫煙道具の形式の上でも、北海道アイヌは日本、樺太アイヌは中国大陸から、千島アイヌはカムチャッカ半島を経てロシアの影響を受けていた。

彼等のタバコは大半和人その他より購入する以外に自ら栽培したといわれるが、多くはいたどりの葉・ぶどうの葉・よもぎの葉・とうきびのひげ等を乾燥して細かく刻んで、タバコの代用品として喫煙に用いた。



煙草入れ—上左・北海道アイヌ三点セット、上右・カラフトアイヌ

昭和49年度博物館活動の指針について

市立函館博物館館長 石川 政治

昨年(昭和48年)の日本博物館大会のテーマは「明日の文化を創造する博物館活動——とくに人間性の回復をめざして」でありました。

今や博物館は庶民の学術的・文化的・かつ社会のリクリエーションのセンターとなっています。

函館市には伝統のある図書館をはじめ、公民館・青年の家・青少年センター・フィルムライブラリー・市民プールなど立派な社会教育機関がそろっています。市民にとって本当に幸せなことだと思います。

さて20世紀の物質文明が偉大な発展をつづけ、科学の面では原子力の利用まで到達してしまいました。反面全世界的に自然が危機に瀕しました。人々の心がむしばまれ、石油や食糧問題は地球的規模で解決しなければならない状態にあります。

今こそ博物館教育は、人間の幸福とは何か——もう一度原点に立ち返って考えてみる必要に迫られています。豊かさとは何か、一粒の種をまいて、それに水をやり、その芽が育ってゆく喜びをかみしめ、観察する。そんな些細な体験を大事にしてゆきたいものです。

文化財にしても、現地に行って、この目でたしかめ、自らの手で土器を製作し体験する。そしてその風土に生まれた人間の歴史の跡を大事にする気持を育てあげる。いわゆる博物館は体験実習の時代に入っています。

最近文部省は地方博物館の設置基準を作りました。その中で「博物館が行なう教育活動のうちで、展示による活動以外の諸活動を実施するにあたっては、博物館資料の研究者や愛好者からなる、いわゆる“友の会”などを組織して、継続的に博物館の利用を促進することが望ましい」といっています。

どうか博物館を気軽に継続して利用していただきたいものです。したがって博物館の市民講座(本年は民俗・考古・美術・歴史・生態の5講座)も今年から申し込み制となり、継続方式にきりかえました。

勿論これらの諸活動を実施するにあたっては、受入側の博物館の体制が大事です。収蔵庫や資料目録の整備、学芸員の質の向上、増員も必要となってまいります。

これらの問題を解決するには時間がかかります。このほか、春と夏の特別展、飛行場拡張による遺跡調査、箱館戦

争関係の資料収集、北方資料や郷土資料の充実など、時間をかけて山積みの問題を一つづつ、着実に解決してゆかなければなりません。

当館は郷土の総合博物館であります。青柳町の本館、五稜郭の分館、末広町の郷土資料館の3館が互いに連携をとりながら、市民のサービスにつとめています。

その中で本年の目標としてかかげた「主要施策」と具体策を項目別に列記して紹介します。

○昭和49年度主要施策と具体策

| 主要施策 | | 具体策 |
|----------|----------------|---|
| 博物館体制の充実 | (1) 収蔵庫等の整備拡充 | ○本館屋上収蔵庫の増設 ○考古資料の整理 ○火災警報装置の新設 |
| | (2) 職員の資質の向上 | ○研究会への参加 ○学会等における発表 |
| 博物館活動の充実 | (1) 資料の積極的調査収集 | ○北方資料の収集 ○開港五稜郭築城関係資料の収集調査 ○郷土資料の収集 ○関連資料の購入 |
| | (2) 普及活動の充実 | ○市民講座の内容充実 ○春季・夏季特別展の開催 ○埋蔵文化財の調査(地域開発に対応する文化財保護) |
| | (3) 資料目録等の発行 | ○馬場コレクションの整理報告書発行(第1集) ○館報(サラニップの発行) ○博物館要覧の発行 |

北の装い展雑考

学芸係長 姫野英夫

古代アイヌの衣服は獣皮（或は魚皮）とオヒョウの樹皮からとった繊維で織ったアツシであった。その後和人が交易品として持ち込んだ古手（古着）を改造した着物や延継と呼ばれる古裂を継ぎ合せて仕立てた着物に、補強と装飾を兼ねた刺繍や切伏を施した着物を好んで着用する様になり、一部のアツシは和人向けの交易品として製作された。このアツシは強靱性と耐湿性が優れており、なお非常に安価なため、漁場で働く和人の漁夫の作業衣に適していた。

寛政2年（1790年）の記録といわれる「蝦夷地一件」に当時の交易品の標準価格が記載されている。それによれば米1俵（8升入）を基準として次の様に定められた。

| | | |
|-----|----------|------|
| 酒 | 5升 | 米1俵 |
| たばこ | 5把 | 米1俵 |
| きせる | 5本 | 米1俵 |
| 生 鮭 | 5束（100本） | 米1俵 |
| 木 綿 | 2丈 | 米1俵 |
| 古 手 | 上1枚 | 米10俵 |
| 古 手 | 並1枚 | 米8俵 |
| アツシ | 上1枚 | 米2俵半 |
| アツシ | 並1枚 | 米1俵半 |

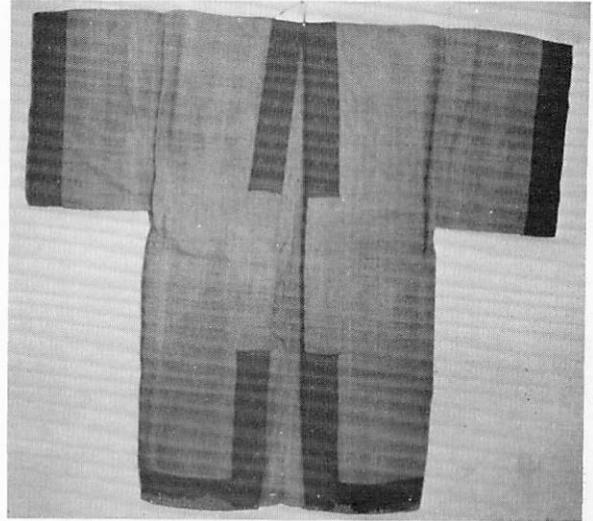
以上の記録は寛政元年の目梨、国後の乱の直後の厚岸地方の相場であり、厚岸（アイヌ語でアツシの多くとれる場所の意といわれる）はアツシの製作の盛んな地方であり、相当量のアツシが交易されたと考えられる。

交易品として製作されたアツシはその地方に出稼した和人の漁夫やアツシの生産のない部落のアイヌ人に支給された。さらにその一部は松前・箱館にも集荷された。松前・箱館でアツシが着用されていた事は松前紀行（函館市史・史料篇第一巻）に記述されている。

その後北前船の往来が盛んになるにつれて、内地から来る船の乗組員等もアツシの特性を知って着用する様になり、中には蝦夷に来た記念の土産品とし購入した。現在東北・北陸地方の古い港町にアツシが残されているのはその為である。

以上述べたアツシは一応筒袖の丈の短い労働着と考えられるが、後には船の船頭等の様に直接労働をしない人々も袖を広くし丈を長くして、着物の上に羽織る様に仕立てて着用された。図版は今回の「北の装い展」に出品された旭川市郷土博物館が出品した広袖アツシと、明治10年代の江

戸歌舞伎俳優9代目市川團十郎の広袖アツシを着用した舞台写真である。この広袖アツシは最初和人がアイヌ人に袖の形を教えて作らせたもので、この袖に「サムツサ」と和人袖という名前がついている。



広袖アツシ



アツシを着た9代目市川團十郎

実物を見ながら学ぶ

市民講座

今年度も博物館の市民講座が開かれています。科目は例年のとおり「生態」「民俗」「考古」「美術」「歴史」で、4月より毎月1回、市立函館博物館友の会植物研究部（函館植物研究会）と共催で「生態」の講座が開催されています。テーマは「函館付近の植生」で大野中学校教諭宗像和彦氏がシリーズで話を進めており、その他適時に関係のある講演が行なわれます。

また、博物館の春季特別展と並行して5月中の各日曜日



市民講座〈民俗〉

4回、「民俗」の講座が行なわれました。アツシのできるまでの話を児玉マリ氏に、アイヌ民族について姫野学芸係長が説明し、その他、道立図書館北方資料室保存の「アイヌの装い」などの映画を3本上映しました。

今後の予定は7月中の日曜日4回「考古」の講座が開かれます。小林政喜氏（函館中央警察署）による「縄文土器の文様と形」が主テーマで、その他米人スチュアート・ヘンリー氏（早大大学院生）の「インダス文明」が予定されています。

9月には「美術」が開講され「茶道具」を中心に学び、10月には「歴史」で西田分館係長が「箱館戦争」について話をするようになっていきます。

これらの講座は生態を除いて昨年度までのように毎回自由参加の形をとらず、申込み制（各講座30名）になり、1カ月間に4回継続し、その講座の中に必ず、実地見学または実習が計画されたことが、今年度の特徴です。

実地見学及び実習の例をあげてみますと、「生態」については、市民講座開催の翌日友の会植物研究部によって植物観察会が行なわれていますし、「民俗」では丁度開催中の特別展の展示物を見ながら一つ一つ説明がなされ、「考古」は遺跡見学会（現在発掘中の空港遺跡）と土器作成会が計画され、「美術」については茶会を、「歴史」は箱館戦争史跡めぐりが予定されています。

現在は体験実習の時代といわれております。耳や活字によらず、実物を見たり、さわったり、実際にやってみる……そして楽しみながら学ぶ……。よく、すぐ役立たないからと敬遠される方がおられますが、いつかはこの市民講座で学んでよかったと思われることがあるでしょう。皆さん振るってご参加下さい。

（学芸員・岡田一彦）

入館者統計

昭和48年度常設展示（48.11.1～49.3.31）

| 月別 | 館別 区分 | 本館 | | | 分館 | | | 郷土資料館 | | | 総計 |
|----|----------|-------|----|-------|-------|-----|-------|-------|----|-------|-------|
| | | 個人 | 団体 | 計 | 個人 | 団体 | 計 | 個人 | 団体 | 計 | |
| 11 | 大人 | 232 | 40 | 272 | 1,895 | 81 | 1,976 | 173 | | 173 | 2,421 |
| | 小人 | 58 | | 58 | 227 | | 227 | 78 | | 78 | 363 |
| | 計 | 290 | 40 | 330 | 2,122 | 81 | 2,203 | 251 | | 251 | 2,784 |
| 12 | 大人 | 35 | | 35 | 373 | 42 | 415 | 83 | | 83 | 533 |
| | 小人 | 54 | | 54 | 79 | | 79 | 86 | | 86 | 219 |
| | 計 | 89 | | 89 | 452 | 42 | 494 | 169 | | 169 | 752 |
| 1 | 大人 | 138 | | 138 | 546 | | 546 | 98 | | 98 | 782 |
| | 小人 | 91 | | 91 | 181 | | 181 | 76 | | 76 | 348 |
| | 計 | 229 | | 229 | 727 | | 727 | 174 | | 174 | 1,130 |
| 2 | 大人 | 139 | | 139 | 677 | 116 | 793 | 95 | | 95 | 1,027 |
| | 小人 | 83 | | 83 | 140 | 24 | 164 | 115 | | 115 | 362 |
| | 計 | 222 | | 222 | 817 | 140 | 957 | 210 | | 210 | 1,389 |
| 3 | 大人 | 277 | | 277 | 1,714 | 50 | 1,764 | 159 | | 159 | 2,200 |
| | 小人 | 270 | | 270 | 409 | | 409 | 225 | | 225 | 904 |
| | 計 | 547 | | 547 | 2,123 | 50 | 2,173 | 384 | | 384 | 3,104 |
| 累計 | | 1,377 | 40 | 1,417 | 6,241 | 313 | 6,554 | 1,188 | | 1,188 | 9,159 |

特別展「北の装い展」

| 区分 | 個人 | 団体 | 計 |
|----|-------|--------|--------|
| 大人 | 3,442 | 419 | 3,861 |
| 小人 | 1,323 | 21,236 | 22,559 |
| 計 | 4,765 | 21,655 | 26,420 |

このほか 招待者 206

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ—No.10 1974.7.1.発行
編集・発行 市立函館博物館（TEL 0138-23-5480）
北海道函館市青柳町・函館公園内（〒040）